

九管連総会・鹿児島県大会

次世代に技能伝承を

県災害への義援金も



経営革新に努めよう——と挨拶する藤会長
＝鹿児島市の城山観光ホテルで

九州管工業組合連合会（九管連、藤成徳会長）は28日、鹿児島市の城山観光ホテルで第44回通常総会・鹿児島県大会を開き、九州8県から約260人が参集して次世代の担い手に技能・技術を伝承しようなどとする新年度スローガンを採択した。総会では、初めに藤会長が「経済回復のすそ野が広がっているが、管工業業界においては受注競争の激化や単価の低迷など厳しい状況が続いている。入札制度の改革も進み、異業種JVやPF

県砂利協同組合連合会総会

骨材資源の円滑供給を

県砂利協同組合連合会（東郷三郎会長）は28日、鹿児島市のグリーンホテル錦生館で第26回通常総会を開き、骨材の品質と有効利用に関する諸問題等について、実態把握を通じて適切に対応することなどを柱とする新年度事業計画を決めた。総会では冒頭、東郷会長が挨拶し、17年度事業計画を承認した。議案を審議した結果、執行部原案通りすべて可決承認した。



連携の重要性を確認した総会
＝鹿児島市のグリーンホテル錦生館で

1が課題だ。会員各位は経営革新に努め、生き残りに努めてほしい」と挨拶。次いで、17年度秋の叙勲で旭日単光章を受章した山之内成夫氏（錦江設備工業）ら3人に顕彰状を贈呈、これを受けて山之内氏が「榮譽に恥じ

ないよう精進していただきたい」と謝辞を述べた。議事では、肥後勝司副会長を議長に、17年度会務・決算、18年度事業計画・予算案等を審議し、全会一致で可決承認。次期開催地は福岡とした。続いて行われた懇親会では、藤会長が挨拶の中で鹿児島県をはじめ九州各地で甚大な災害が発生していることから全国管工業協同組合連合会（全管連）から見舞金を贈呈されたこと、各単協において義援金を募ることを表明。

鹿屋肝属電気設備協組安全大会

労働の安全確保誓う



安全対策の講義を聴く会員＝鹿屋市のホテルこばやしで

このあと、尾辻義典副議長長の発声で乾杯、いた。出席者は楽しく歓談して

鹿屋肝属電気設備協同組合（理事長・山形広ノ進）坂元電気工事社長は27日、鹿屋市の田崎神社で安全祈願祭を行い、向こう1年間の無事故無災害を祈念した後、同市のホテルこばやしで安全大会を開き、労働無災害に向け安全確保を誓い合った。

講師には、九州電力鹿営業所管理拡充グループ長の柊好文氏と鹿屋警察署交通課長代理の平原弘徳氏を招いた。柊グループ長は、感電死亡災害防止について、特に柱上作業での感電事故防止について強く訴えた。また、

内山組・安全協力会安全大会

豪雨災害に義援金贈る

（株）内山組（内山吉郎社長、志布志市）と安全協力会は28日、志布志市で安全大会を開き、豪雨災害に義援金を恒例になった交通遺児たすけあい献金が贈られたことが報告された。

安全協力会 安全大会



安全大会を開いた。社員や協力会員ら95人が出席して交通安全防止、健康管理等を学ぶ安全意識を高めた。また同社と協力会が県北部豪雨災害に善意の義援金と恒例になった交通遺児たすけあい献金が贈られたことが報告された。

安全対策の講義を聴く会員＝鹿屋市のホテルこばやしで

安全対策の講義を聴く会員＝鹿屋市のホテルこばやしで

安全対策の講義を聴く会員＝鹿屋市のホテルこばやしで

合同献血キャンペーン

一日300人目標に活動



献血を呼び掛ける会

「私たち青年の力で、県民一人ひとりに献血活動への協力を呼び掛けていきます」をテーマに県建設業青年部会（川畑勇一郎会長）は28日、鹿児島市の鹿児島中央駅前広場で、合同献血キャンペーン活動を実施。一日300人の採血を目標に活動を展開し、夏場の血液不足解消に大きく貢献した。

同活動は7月28日の全国建設青年の日に合わせて行われたもので、県や鹿児島市からも協力力を得てか

献血を呼び掛ける会＝鹿児島市の鹿児島中央駅前広場で

オープンゲッセモノでは、末吉晴海建設業協会理事が主催者を代表して挨拶。渡邊真一郎鹿児島市収入役、前田芳夫県赤十字血液センター所長が「大規模な災害が発生した県北部で、建設業の方々が率先してボランティア活動を展開されていることに敬意を表するとともに、今回の献血運動など、地域貢献活動に積極的に参加されることに感謝します。きょうは多くの方々に献血への協力を呼び掛けてほしい」となどエールを送った。

無料のお支払いが手軽で便利な自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ